

## 創刊の辞

同朋学園佛教文化研究所

所長 藤井智海 識

このたび「佛教文化研究所紀要」創刊号の発刊を見るに至ったことは学園当局は勿論、宗門内外ひとしく期待していたところで、望外の喜びこれに過ぐるものはない。ここに些か発刊の縁由と向後の抱負について述べておこう。

惟うに、本研究所の縁由目的は初代学長、稲葉円成先生持言の「広く佛教文化の研究と興隆に関与し、もって地域社会に貢献する」という学園設立の趣旨に基くものであるが、その渊源は遠く閼蔵長屋に発する佛教学の研究所が設立され、爾来本年に至るまで満一五〇年の伝統と、その歴史をもつ本学の建学の精神、即ち親鸞聖人の御同朋、御同行の原点によるものである。

凡そ、東西の文化を瞥見するとき、西洋文化が基督教によって開発せられたのに対して、東洋文化は佛教を中心として、その精神を広めたことは今更ら云うまでもない。況んや、吾が国が文化国家として人類文化に貢献せんとする所以のものは吾が国独特の文化、佛教文化を高揚して、その真価を世界人類の上に齎すものでなくてはならない。従って、日本文化の中に佛教文化の精髓を発揮することこそ、私どもの責務と確信するものである。

翻って、本研究所は昭和五十二年四月発足以来、未だその日浅くも、所員及び研究員は打って一丸となり、佛教文化の解明につとめ、その具体的方法として、先づ混迷せる現代社会にもっとも肝要なる『歎異抄』を手がけ、研究会をもち、相互に自由討議を重ね、その間、隔月ごとに本書に関係深い諸先生を招聘し、公開講座を開設している。一方また最近新発見された本源寺所蔵の宋版一切経の研究調査に所員一同研鑽努力を重ね、着々とその成果を挙げつつある。

幸いにして、今回その研究成果の一端を報告し得たのが「研究所紀要」の創刊号である。

何とぞ、先輩諸子の忌憚なき御批判を仰ぐと共に、学園内外の関係各位が本研究所の趣旨にご賛同下され、陰に陽に深きご同情とご助力を賜ったことに対し、また研究所各員の真摯なる努力に対し衷心より感佩申し上げて発刊の辞とする次第である。

一九七九年一月